



趣旨

花見川千本桜緑地において、花見川沿川の新たな水辺の拠点形成を目指し、「河川空間」と「まち空間」の一体的な利活用の可能性を検証する社会実験を開始します。社会実験に着手するにあたり、近隣にお住まいの方やサイクリングコースの利用者等にご意見やアイデアを伺うワークショップを開催しました。

開催概要

回	日付	テーマ	内容	参加者
第1回	10/19(土)	将来を展望する回	【フィールドワーク】 千本桜緑地を実際に見て回り、「良いところ」や「悪いところ」、「活動」、「活用方法」を調査	
			【将来を展望する】 5~10年先の千本桜緑地の「将来の姿」を検討	
第2回	11/2(土)	すぐに来ることを考える回	【くつろぎ空間】 日常やイベント時に、川辺で「くつろぐことができる空間」を検討	
			【桜のイベント】 桜が開花する頃の千本桜緑地で、「実現したいイベント」を検討	

第1回 将来を展望する回

- フィールドワーク
- 主な意見(各班の意見を集約)
- 将来を展望する
- 各班の主な意見

項目	意見・アイデア
良いところ	<ul style="list-style-type: none"> ・空が広く見えて、心地良い風が吹く ・瑞穂橋からの眺めがいい、川が遠くまで良く見える ・お散歩、ランナー、サイクリストが多い
悪いところ	<ul style="list-style-type: none"> ・水辺に近づけるような河川敷が少ない ・雑草で水面が見えない ・緑地内は雑草が多く、歩きづらい
活動	<ul style="list-style-type: none"> ・散歩、ランニング、サイクリング、釣り(ハゼ釣り)、親子で遊んでいる、キャッチボール、虫取り、フリスビー、ピクニック、休憩
活用方法	<ul style="list-style-type: none"> ・カフェなどの飲食できる施設があると良い(朝だけでも) ・河川敷の整備 ・憩いの空間、休憩スポット (ゴロゴロ寝転がれる場所、ベンチ、屋根があるといい)



日常的に千本桜緑地を利用する近隣住民やサイクリングコースの利用者をターゲットに、「この近くに住んでよかった」、「この近くに住んでみたい」と思えるような場所にしたい。
そのためには、一過性のイベントで賑わう場所ではなく、「日常を豊かに」することで実現できるのではないかと考えました。



千本桜緑地は、東京湾から印旛沼までつながる「うみさとライン」の中で、都会の雰囲気から緑が多くなるちょうど切り替えの地点。また、道幅が広く、ゆったりと整備された道路との結節点であることや、アクセスも良く、JR幕張駅から近いこと、サイクリングコースの待ち合わせ場所(拠点)になるのではないかと考えました。



今あるものを大幅に変えて、たくさんの人が賑わう空間を目指すのではなく、桜や川、広々とした緑地を引き立てるような空間を意識しました。
日常的に利用する近隣住民とサイクリングコース利用者がくつろぐことができる場所として、ふらっと寄り道したくなるような、ちょっとした場所をイメージしました。

第1回 将来を展望する回

各班の意見を集約したイメージパース

緑を残した親水護岸

水辺の散歩やカヤック、釣り、芝生で寝転がれる

飲食ができるカフェ

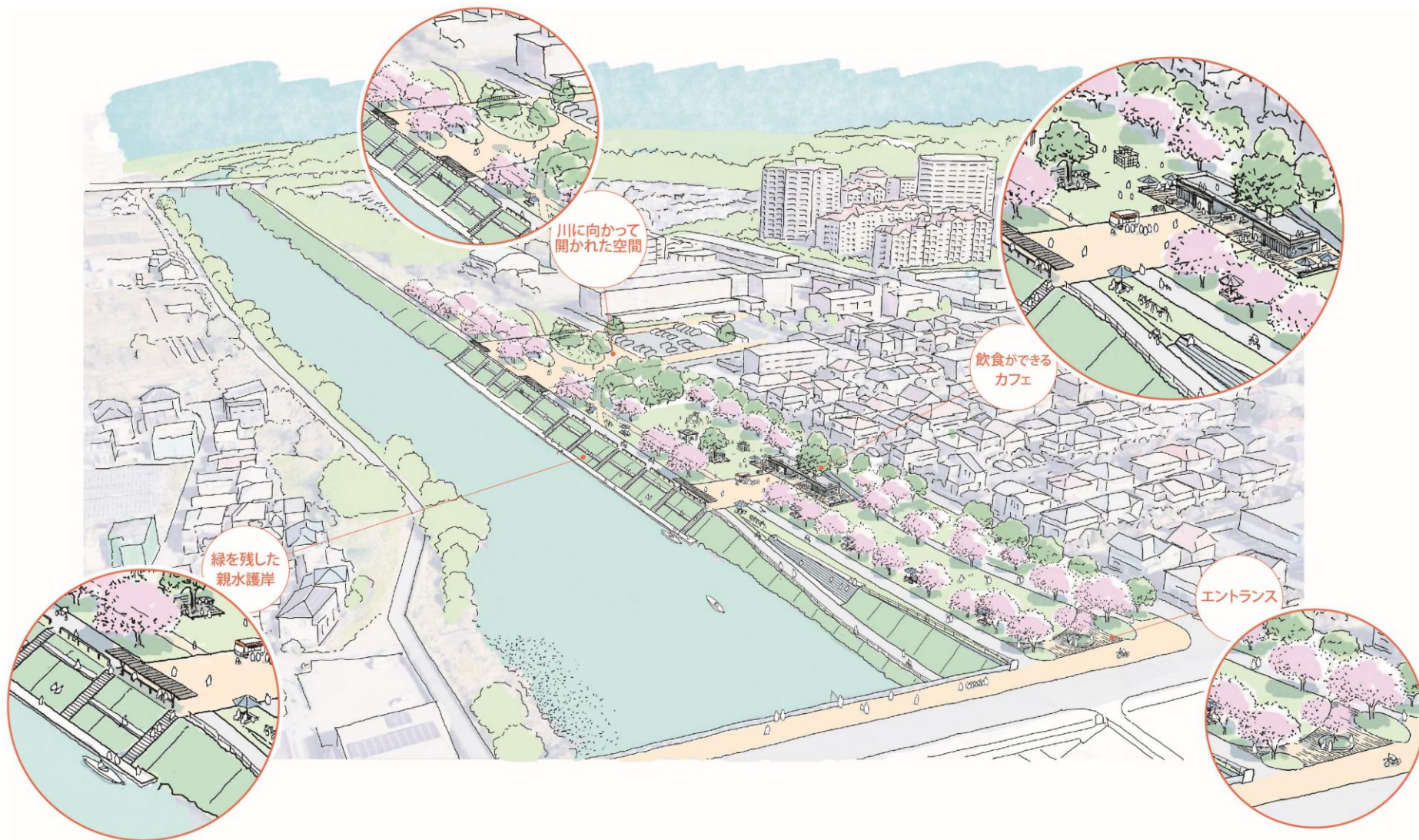
地元の人やサイクリングコース利用者が
ふらっと寄りたくなるようなくつろぎの場所

エントランス

千本桜緑地の顔(エントランス)
通行する人が何かありそうと思えるような設えに

川に向かって開かれた空間

図書館や区役所などを利用した人が、
自然と川辺に行きたくなるような空間に



第2回 すぐに来ることを考える回

くつろぎ空間

ワークショップの結果を踏まえ、くつろぎ空間を整備します。

各班の主な意見

令和レポリューション チーム



サイクリングコースの利用者が「ちょっと休めるような場所」や近隣住民が自然と「井戸端会議」がはじまるような場所があるといい。イベントの時には、キッチンカーで買ったものを座って食べたり、ヨガ教室をステージのところでやってみたりすることができるとして、多用途に使えることを意識しました。

リバーサイド チーム



近隣住民やサイクリングコースの利用者など、みんなが休憩できる場所がいい。木々を活かした子供の遊び場となるような物にしたい。椅子やテーブルなどで使い方を限定するものではなく、多用途に使えるものにしたい。

桜のイベント

ワークショップの結果を踏まえ、3月末にイベントを開催します。

各班の主な意見

令和レポリューション チーム



「地元企業」や「地元の出店者」を中心に、体験型のイベントを開催したい。また、瑞穂橋を通行する人やサイクリングコース利用者が目を引くコンテンツとして、花見川に「こいのぼり」を通したい。こいのぼりの下をくぐり、桜を水面から見る事ができるようなカヤック、水上自転車などの水辺のアクティビティができると楽しそう。

リバーサイド チーム



「多世代が楽しめる」、「ふらっと立ち寄って楽しめる」、「イベント後も継続できるコンテンツ」の3つポイントを意識しました。特に、「イベント後も継続できるコンテンツ」として、地域の方で出店できる方を募集して、その繋がりから、持続性のある取り組みにしたいと考えました。

くつろぎ空間のポイント

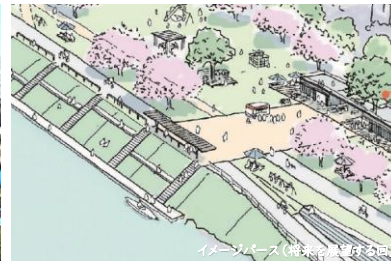
多用途に使える



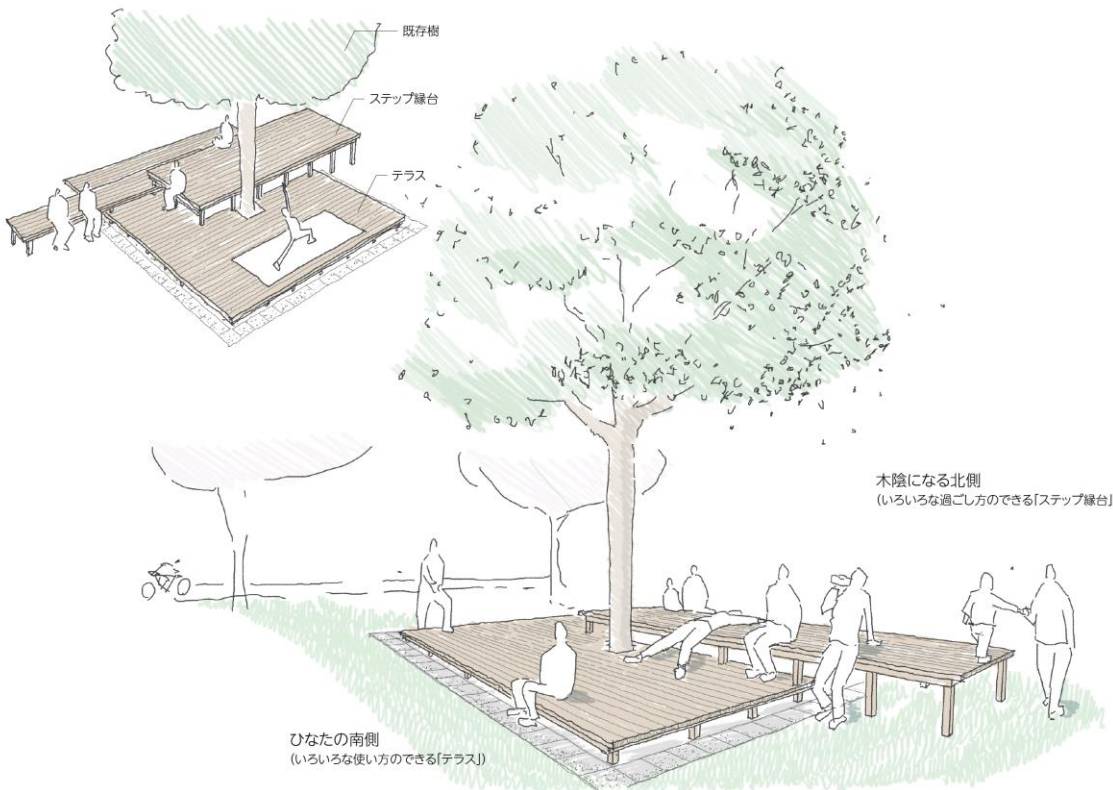
木々を活かす



サイクリングコース利用者の導線



くつろぎ空間のイメージパース



ひなたの南側
(いろいろな使い方ができる「テラス」)

木陰になる北側
(いろいろな過ごし方のできる「ステップ緑台」)